

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を全職員で確認しているが、これまでの理念を見直し、住み慣れた地域との関係性の継続を支えるための理念を柱にしていきたい。	○	今後はさらにより具体的な職員の言葉で理念の構築をしたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングなどで確認し、具体的なケアに展開できるよう努めている。	○	今後はさらに理念の実現へ職員全員で取り組みたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には訪問時や家族会等で伝えるようにしているが、町内会の会合等へ積極的に参加して事業所の実践を伝えていきたい。	○	認知症への正しい理解などを、理念とともに地域へ発信していきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃からの挨拶、回覧版回し等でふれあい。又天気の良い日は散歩や施設玄関前ベンチに座り日光浴を行っているが、犬の散歩等で行き交う人と挨拶を交わしなじみとなっている。時々施設に訪問して頂いている。	○	今後も継続して行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会行事(敬老会、ごみ当番、川掃除、夜警)等積極的に参加して交流を持っている。又地区の小学生が、福祉の勉強を希望して一日施設研修を受け入れした。	○	地区の方々に気楽に立ち寄ってもらえる施設にして行きたい。またそうなるような議論を進めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症ケアの啓発に努めている。職業安定所より依頼を受け、実習生の受け入れを行いました。又ボランティアによる蓄音機コンサートを開催しているが、家族、地域の方々に便りでお誘いしている。	○	今後も積極的に実習生の受け入れをして行きたい。地域の方々と交わる機会を積極的に作って行きたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 ○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。その後ミーティングで報告し改善に向けている。	○	今後は自己評価・外部評価のシステムを積極的に利用し、良い施設としての自己啓発に努めたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去、法令上の基準を満たすまで開会していないが、頂いた意見は真摯に受け止め、改善等の報告を済ませている。会議の中で災害時の避難場所について相談した結果、場所の紹介を頂いた。	○	形式的な会議でなく、有意義な会議の開催をしたい。
9 ○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	連携があまり出来ていないが、判断困難な時は相談に伺っている。	○	事あるごとに報告しているが、より一層連携をとって行きたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員の理解はまだ無い。	○	勉強会を開き理解を深めて行きたい。
11 ○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティング等を実施し理解浸透や厳守に取り込んでいる。	○	高齢者虐待関連法等について職員間で周知し、防止に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を取って説明している。特に利用料金や起こりえるリスク、重度化の看取りについて、当事業所の考え、医療連携体制について説明して同意を得ている。当事業所のケアに関する取り組みについても説明している。	○	利用者の重度化、状態変化時の医療との連携体制の確立を密にして行きたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情については、スタッフ全員で情報の共有を図ると共に、原因を探り再発のためのミーティングをしている。	○	近々介護相談員の派遣を受け入れて運営の参考にしていく予定。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来所時に利用者の状況報告をさせて頂いている。変化や問題が起きた際には電話にて随時対応して解決している。預かり金については金銭出納張を明示して確認を頂いている。	○	毎月利用者の健康状態、生活の様子、金銭利用状況の報告を実施したい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情設置箱を玄関フロアに設けている。苦情を受けた時は、発生原因を探り課題を検討して、改善に向けている。	○	家族の方には、暖かな施設になるよう、改善点等意見を頂いている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	○	職員が積極的に意見が言える環境造りを心がけたい。

サンライズ里山辺 2Fユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	離職をできるだけ避けられるような取り組みをしたい。
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	計画的な職員研修の機会を設けて行きたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	今後も積極的に取組んで行きたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	心身を休める場所の確保や配慮。勤務ローテーションの工夫に取り組んで行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の職員の特性をいかにさせるように配慮している。職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後本人の意向を重視しながら職場内で活かせる環境づくりに努めている。	○	職員が向上心を持って働ける環境づくりをして行きたい。職能評価を検討して行きたい。
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態を把握するように努め、その過程で利用者や家族の思いを受け止め安心して頂けるように努めている。	○	継続して行きたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	グループホームではどのような対応が出来るのか事前に話し合いをしている。	○	相談する家族の立場に立って、話をしっかり聴きながら、受け止めながら関係を築いて行きたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用開始前の事前相談などの機会には、必ずご本人にとってグループホームでの生活及びケアが最善であるのか慎重に見極める努力をしている。	○	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を継続して行きたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初の入居相談の段階から、入居への具体的な話を進める段階において、できる限りご本人とご家族が見学を兼ねて施設に遊びに来て頂けるように機会を提供している。	○	継続して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の中で先輩であるという考えを職員で共有している。支援する側、支援される側という意識を持たずお互いが協働しながら穏やかな生活が出来るよう声かけを行っている。	○	本人の思いを把握し理解して、共に生活する環境づくりを大切にしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人を家族と同じような思いで支援している事を伝えている。	○	家族との関係づくりを大切にしていき、情報交換をより密に行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に参加して頂き、良い関係の継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活習慣を尊重するように努めている。知人、友人等に気楽に訪問して頂いている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	喜びも悲しみも、ご利用者同士が分かち合い、助け合い・支え合う ことをこれまで施設全体のテーマとして掲げてきました。	○	時には、ユニットを越えた交流も視野に入れ、ご利用者同士の関係性について注意深く見守っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後の生活でもお困りにならないよう出来ることは、サービスを続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いに近づくようにミーティングや日々の関わりの中で把握し確認している。又、家族からも情報を得ている。		
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅訪問したりご本人・ご家族等から聞き取るようにしている。また、利用開始後も把握に努めている。	○	今後は表面的な事柄に終わらず、さらに深く生活歴の把握に努めたい。
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムの把握に努めている。行動や小さな動作から感じ取り本人の全体像を把握している。	○	日々変動する様子を丁寧に観察してケアに繋げて行きたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含めた職員全員での話し合いをしている。家族には、日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。	○	日頃の気づきをケアプランに活かしたい。センター方式を取り入れ進めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在職員は状態の変化に応じて対応しているが、利用者の変化が早く、それに依る計画書の変更はまだ対応しきれていない。	○	職員が情報を確認し、ご家族やご本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直し、状態が変化した際には、検討見直しを行って行きたい。
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や本人の言葉を記録する。職員の気付き、利用者の状態変化の情報共有していきたい。	○	個別記録表を見直し検討して行きたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の状況に応じ通院支援等の対応を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	個々の利用者によっては、ボランティア等を活用して、お茶の会等参加して、支援の手助けを頂いている。	○	地域へのボランティア資源の発掘に取り組みたい。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	これらの地域資源は現在活用できていない。	○	積極的に取り組みたい。



サンライズ里山辺 2Fユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連携は出来ていない。	○	運営推進委員会に参加して頂いているので、関係を強化して行きたい。
43 ○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し通院介助や訪問診療を行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関での認知症についての指示や助言を頂いている。		
45 ○看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週一回程度の訪問を基本として、訪問看護事業所と連携し健康管理と適切な医療サービスを受けられるよう支援している。介護職員と看護師と気軽に相談できる関係が出来ている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご利用者が入院した場合は、面会を重ねて情報の交換に努め家族とも連携し支援している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これらの重要性は、開所して数年経過し問題の大きさが顕著になりつつあり、今後の大きな課題であると認識している。	○	この課題については今後ますます施設職員のみならず、ご家族を含めた方針の共有を図って行きたい。

サンライズ里山辺 2Fユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	職員全体の意識の統一をさらに図っていきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		

サンライズ里山辺 2Fユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をするように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは出来ているが、時間を区切った過ごし方はしていない。1人ひとりの体調に配慮しながらその時の本人の気持ちを尊重して希望を取り入れられるように努力している。	○	利用者に目を向けた対応を心がけたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の身だしなみ、化粧などは本人の好みに支援している。一部の利用者は本人の望む理容店に行かされている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は利用者と共に行い、一緒に食事を味わいながらその場雰囲気作りも大切にしている。又折に触れ食べたい物があるか希望を聞き、献立に取り入れている。	○	食えることが心の栄養になるようバランスの良い食事作りを心がけたい。
55 ○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が嗜好品を楽しめるよう、日常生活に取り入れる努力をしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間を把握しトイレ誘導を行い排泄を促している。排泄チェック表を使用して、尿意のない利用者にも時間を見計らい誘導することにより、トイレで排泄出来るよう支援している。	○	重度化した利用者に応じた排泄の支援方法を、さらに研究しよい支援に繋げたい。

サンライズ里山辺 2Fユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回予定で支援している。入浴を拒否する利用者には、職員も一緒に入り安心感を持ってもらう工夫をしている。	○	積極的に取り組みたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息その他、個々の利用者によって思い思いに一日を過ごしているが、日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。特に夕方から穏やかで安心した時間の過ごし方を支援している。	○	利用者1人ひとりの生活暦を把握して、穏やかな生活が出来るよう支援していきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々、日課はあまり作らずにその日の利用者の気分に合わせて過ごせるよう支援している。朝利用者中心で話し合いをして一日の過ごし方を決め支援している。	○	日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるような支援。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な利用者の方は所持して頂き買い物などで自分で支払って頂いている。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間を通して季節が感じられるように、紅葉狩りや初詣などの外出を支援している。天気や本人の気分、希望に応じて散歩や買い物、ドライブ等にも出かけている。	○	今後はもっと個々の希望に沿って外出の機会を増やしたい。

サンライズ里山辺 2Fユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日頃の会話のなかで、懐かしい行きたい場所を話題にして、実現できるよう支援している。	○	ご本人の希望を家族に速やか、かつ気軽に連絡できる関係作りを目指したい。
63 ○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望により、日常的に支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	原則として、いつでもご家族等の訪問は可能。また、希望に沿ってご家族との外出も支援するとともに、時には施設から訪問・外出の依頼をする場合もある。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その人の人権を守る事がケアの基本だと認識し、状態の安定や安全に向けたケアを行っている。1名介護衣を着用しているが、家族の了解を得て着用している。	○	介護保険法指定基準の周知を進めたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関などは開けているが、階段付近の危険な箇所近くの各ユニット出入り戸については鍵を使用している。また、この戸は安全に外出できる方は自ら開け外出が可能。	○	施設玄関前がバス道路になっているため危険度が高いので今後の課題としたい。

サンライズ里山辺 2Fユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアーにいる職員が見守り、夜間は数時間ごとの様子確認等の安全配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況変化によって注意を促し管理している。		
69 ○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	時折訓練等を行っているが不定期であり、施設として、一層の努力が必要である。嚙下のリスクの高い利用者の食事支援をおこなっている。	○	ヒヤリハットの職員の共有認識を図りたい。
70 ○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成し、夜間時の緊急時対応で活かしている。	○	行政関係者や消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施したい。
71 ○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防・避難訓練を行っている。運営推進会議で避難場所を紹介いただいて、確保が出来た。	○	月一回位の訓練を義務づけ、昼夜をとわず利用者が避難できる方法を身につけて行きたい。
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由な活動により、リスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者が生き生きと生活できることを家族に具体的に説明している。	○	家族との関係づくりを更に大切にしていきたい。

サンライズ里山辺 2Fユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	状態変化には常に注意し、速やかに医療サービスを受けることができるよう支援している。	○	職員一人ひとりが目配りをして、変化をキャッチして行きたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は本人にその都度手渡し確認している。本人の状態変化時は訪問看護、協力医療機関との連携を図るようにしている。	○	服薬一覧表等をつくり、取り違いのないように、注意して行きたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材を工夫したり、水分の補給をすすめ自然排便を促し運動も定期的に行っている。又週一回訪問看護に状態を説明して処置していただいている。	○	今後もより一層取り組んで行きたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後・就寝前の口腔ケアへの声掛け、心身の状態に応じた職員介助。	○	今後もより一層取り組んで行きたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスには特に配慮し、十分な栄養と楽しみの提供に努めている。		

サンライズ里山辺 2Fユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こりえる感染症について、マニュアルを作成し、全職員で学習して予防対策につとめている。家族の同意を得て職員と共にインフルエンザ予防接種を受けている。	○	ペーパータオル使用等の予防対策に取り組みたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は、毎晩消毒し清潔を心がけている。冷蔵庫、食器棚の点検、掃除し食材の点検も行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口にベンチを置き、プランターに四季折々の花を植えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯の炊ける匂い、心地よい音楽、柚子湯や草餅など、季節感を意識的に取り入れる工夫している。室内にも季節折々の草花を生けたり、切絵で季節感を表している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、和室にコタツを設け、自由なスペースを確保している。		



サンライズ里山辺 2Fユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族との相談により使い慣れたものや、写真などが持ち込まれ、利用者の居心地の良さに配慮している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調整や換気に意識・配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身の状態に合わせ工夫している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者に混乱や失敗が続く時原因を探り、職員一同で話し合い環境整備に努めている。	○	ご家族との情報交換などで強化していきたい。
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランター・畑を利用しながらの活動を通し楽しみな環境を整えたり、玄関先にベンチを設置し日向ぼっこや夕涼みできるよう配慮。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所に○をつけること)	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

サンライズ里山辺 2Fユニット

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所には○をつけること)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

サンライズ里山辺は理念に基づき日々の生活の中で支援を必要としている方々一人ひとりが感動のある暮らしで実りある人生を送れるよう支援させていただきます。高齢者同士が助け合い、職員と一緒に家庭的な環境のもと、ゆったりとした生活を送れるように心がけております。)喜びも悲しさも、利用者同士が分かち合い、助け合い、支えあうことをテーマにしています。職員は認知症を理解し、やさしい介護を目指し、又利用者から、美味しいと言って頂ける、バランスと適量の良い食事作りを心がけております。